



JR 日田彦山線復旧と沿線の地域振興策について

JR 日田彦山線復旧と沿線の地域振興策について伺いたと思いますが、最初に、昨日、平成29年7月の九州北部豪雨の復旧工事を巡る贈収賄の容疑で朝倉市職員らが逮捕されました。このことは、JR 日田彦山線沿線を含めた全ての被災地域の復旧に対し、多くの方が尽力する中において許しがたい行為であり、憤りを禁じえません。まずは、この件に関して、知事の所感をお尋ねしたいと思います。

平成29年7月の九州北部豪雨で被災し不通が続く JR 日田彦山線の添田～夜明間については、被災から約3年を経て、ようやく BRT (注1) 導入の復旧案で動き出しました。

(注1) BRTとは？

Bus Rapid Transit の略。「バス高速輸送システム」のこと。

バスが専用道路などを走行することにより、鉄道並みの定時性の確保や、大量輸送を可能にする交通システムのこと。



知事は今議会で沿線地域振興のための基金設置を提案し、各会派から連日その姿勢を質されているところですが、一刻も早い復旧と早期の地域振興を考える上で必要となると思われる視点として、2015年に宮城県仙台市で行われた第三回「国連防災世界会議」で採択された「仙台防災枠組」の考え方を紹介させていただきます。「仙台防災枠組」では、災害の被災者を2030年までに大幅に減少させるなどの目標を打ち出しましたが、注目するのは、基本となる考え方・指導原則の一つとして「復旧・復興段階においては『ビルド・バック・ベター (BBB)』を实践する」との項目を挙げている点です。「ビルド・バック・ベタ

次に、「仙台防災枠組」は、災害発生以前からあった問題も復興を通じて解決することが大切であると指摘しています。「第2期福岡県人口ビジョン・地方創生総合戦略」には、朝倉圏域の施策の方向性について、①豊かな自然や豊富な観光資源を活かす②地元雇用を拡大し若年世代の転出抑制③福岡市、久留米市への通勤を視野に移住・定住の促進④田園生活を楽しむ定住圏域として発展—などとビジョンを描いていますが、知事は、日田彦山線沿線地域に元来ある課題や問題をどのように認識しているのでしょうか？今後、復興を考えていく上で、そうした課題・問題をどのように解決し、地域を発展させていくのか？知事のご所見をお尋ねします。

被災地と被災住民の皆様が明るい希望と展望を持てる、知事の答弁を願います。

【小川知事の答弁】

◆朝倉市職員の収賄事件について

朝倉市職員の収賄事件についてですが、昨日の報道で私自身も知ったわけですし、その詳細は承知していませんが、今後、事実関係が明らかになっていくものと思います。

仮に、これが事実だとすれば、現在、朝倉市をはじめ被災の自治体、そして何より、地域住民の皆様挙げて、その地域の災害からの復旧・復興に全力を挙げておられる訳であります。その中であっての事件でありまして、そういう状況の中での収賄という、県民の皆様、地域住民の皆様の信頼を損なう不祥事であったことは、大変遺憾なことであり、許しがたいことであると思っています。

なお、このような不祥事といいますか、刑事事件は、災害復旧・復興だけに限らない、もともと公務員がやってはならない罪であるということは、言うまでもないことでもあります。今後、注視したいと思っております。

◆「ビルド・バック・ベター(より良い復興)」という考えに基づく

JR 日田彦山線の復旧及び沿線の地域振興について

復旧にあたっては、新しい交通ネットワークで観光振興や経済の活性化を図り、地域の発展につなげていきたいという両地域の思いに応え、地域の皆様に、被災前よりも良くなったと思っただけのような、「より良い復興」を目指したいと考えています。

そのため、今ある現状の中で、地域の皆様にとって一番いい形で解決するには、

- ① 従前の鉄道と比べて、地域の皆さんにとって、より一層利便性が高まるものであること
- ② 交通ネットワークが長期に継続できるものであること
- ③ 観光や経済の振興につながるものであること

この3つの観点等を総合的に判断し、彦山駅から宝珠山駅までを専用道とするBRTでの復旧案を提案させていただいた。

この復旧案は、定時性や速達性といった面でも、被災前と遜色がないものにとできると考えています。また、東峰村の宝である「めがね橋」を、「九州で初めてのBRTのバス」が通るといふ、新しい観光資源を加えることができると考えています。

沿線の地域振興については、今月1日に東峰村、添田町からいただいた要望、「九州の自立を考える会」の「日田彦山線復旧問題対策協議会」におけるご議論を踏まえ、両町村と協議しながら検討し、地域の皆様、県議会の皆様と一緒に取り組んでまいります。

◆日田彦山線沿線地域の課題や問題の認識とその解決について

日田彦山線沿線の東峰村と添田町では、人口減少・高齢化が進み、県内の市町村の中で高齢化率が最も高い地域となっており、地域の担い手不足、活力の低下という課題を抱えています。

一方、両地域は、緑豊かな山々をはじめ、名水百選、棚田百選にも選ばれる美しい自然と景観、霊峰英彦山と山伏・修験道の歴史・文化、小石原焼、高取焼など伝統的な工芸品、これら豊富な地域資源に恵まれています。

県としては、両町村と一緒に、BRTという新しい交通ネットワークを活かし、観光をはじめとする産業の振興などを通じて、交流人口の拡大と経済の活性化を図り、地域の発展につなげてまいります。